

<全体分析>

試験時間 2科目で120分

解答形式

記述式・描図式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)難易(易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

例年, 空所補充形式で, 問題中に丁寧な誘導がある。

例年と異なり, グラフを描かせる問題が久々に出た。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述式 (空所補充)	円筒状にくり抜かれた物体と, その中の小球の運動	物理基礎 物理	(1) 円運動の方程式と力学的エネルギー保存の法則を用いて考える典型例な問題。 (2) 小球が物体に対して止まった時は, 床から見た両者の速度が等しい。 (3) (キ)対称性から, 衝突後の速さはA, Bともにe倍となる。 (ケ)単振り子の周期の半分である。	標準
2	記述式 (空所補充) 描図式	扇形コイルの回転による電磁誘導・コンデンサーの充電と放電	物理基礎 物理	(1) 回転タイプの電磁誘導の典型例な問題。(キ)エネルギー保存の法則から外力を求める。 (2) (コ)は, やや戸惑うかもしれないが, 電圧の関係から電流と電気量の関係を考えればよい。	標準
3	記述式 (空所補充)	ストッパーやばねのある鉛直シリンダー内の気体の状態変化	物理	ストッパーからピストンにはたらく力が, あるときと無いときの区別に注意しよう。 (1) 定積変化の後, 定圧変化を考える。 (2) ばね付きのピストンの力のつりあいを, 状態ごとに考える。 (ケ) PV 図の面積から仕事の大きさを計算。負であることに注意。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

昨年よりは手ごたえのある問題が出たが、難易度に大きな変化はなく、このレベルの大学としては易化傾向が継続している。標準的な準備で十分対応できるレベルの問題が多い。しかし今後、難度が高い問題も出題される可能性もあるのでしっかりと応用力をつけておきたい。問題集は標準レベルおよび応用レベルのものを繰り返しやり、苦手意識のある分野は無くしておこう。基本公式は自力で導け、重要物理用語は自分の言葉で説明できるように訓練しておくことを勧める。